

■コメント

新型コロナウイルス感染症

第53週に合計363件の報告があり、依然として感染者数が多い状況が続いています。

広島市では、幅広い年代で感染者が報告されています(次頁参照)。活動機会が多い年代はもちろん、一人一人が健康管理に注意し、外出機会の削減、マスク着用、手洗いや手指消毒、「3密」の回避、身体的距離の確保、こまめな換気や室内の保湿などの感染対策を徹底しましょう。また、同居家族以外との会食を控えましょう。

発熱、咳などの症状があるときは、仕事や学校を休み、かかりつけ医やコールセンター(積極ガードダイヤル)082-241-4566 に連絡・相談しましょう。

新型コロナ感染拡大防止集中対策 実施中！！

広島県と広島市が連携し、令和2年12月12日(土)から令和3年1月17日(日)まで、集中的な感染拡大防止対策を実施しています。

【集中対策の主な内容】

- ・基本的な感染防止対策の徹底要請(「3密」の回避、マスクの着用、手洗いや手指消毒、外出機会の削減など)
- ・Web会議やテレワークの活用による出勤者の削減要請(5割目標)
- ・酒類提供飲食店の酒類提供時間及び営業時間の短縮要請

※詳細については、下記ホームページからご確認ください。

- ・広島県ホームページ 「新型コロナ感染拡大防止集中対策」の期間延長等

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/stop-infection-hiroshima.html>

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	2	0.05	-		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	-	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	-		小児科	RSウイルス感染症	1	0.04	-	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.13	-		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	18	0.75	-		眼科	流行性角結膜炎	-	-	-	
	水痘	-	-	-		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	4	0.17	-			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	-			マイコプラズマ肺炎	-	-	-	
	突発性発しん	5	0.21	-			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	9	0.38	-		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		

急増減			前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減			前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減			前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい			ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	6
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※第53週は、年末年始の医療機関休診の影響があるため、「定点把握感染症報告状況(週報対象)」の発生記号の表示を行っていません。

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	136	女性(30歳代)、女性(70歳代)
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	19	男性(40歳代)
5	梅毒	2	71	男性(20歳代)、男性(40歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第49週 第50週 第51週 第52週 第53週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
報告数	広島市	第49週	-	3	17	52	5	26	-	8	19	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
		第50週	-	12	22	53	6	23	1	8	19	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
		第51週	1	5	20	48	2	21	-	5	11	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
		第52週	-	6	11	67	8	14	-	6	17	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
		第53週	2	1	3	18	-	4	-	5	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第49週	-	0.13	0.71	2.17	0.21	1.08	-	0.33	0.79	-	0.04	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-
		第50週	-	0.50	0.92	2.21	0.25	0.96	0.04	0.33	0.79	0.04	-	-	0.13	-	-	-	-	-	-	-
		第51週	0.03	0.21	0.83	2.00	0.08	0.88	-	0.21	0.46	0.08	-	-	0.38	-	-	-	-	-	-	-
		第52週	-	0.25	0.46	2.79	0.33	0.58	-	0.25	0.71	0.04	0.08	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-
		第53週	0.05	0.04	0.13	0.75	-	0.17	-	0.21	0.38	0.04	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全国	第51週	0.01	0.31	0.79	2.92	0.19	0.10	0.01	0.38	0.08	0.04	0.13	-	0.19	0.02	0.02	0.04	-	-	-	0.01	
	第52週	0.01	0.31	0.77	3.17	0.18	0.09	0.01	0.35	0.07	0.04	0.14	-	0.19	0.03	0.01	0.04	-	-	-	-	

■広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第53週(12月28日～1月3日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	計
10	14	50	34	54	51	53	44	53	-	363

【累計報告数(1月3日現在)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	計
57	108	439	376	378	379	253	225	182	67	2,464

「風邪かな?」と感じたら、早めに

かかりつけ医やコールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566 に連絡・相談しましょう。

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】広島市における梅毒の発生動向について

梅毒の年間報告数の推移
(2020年第53週現在)



第53週に2件の報告があり、今年の累計は71件になりました。報告数は2019年以降、減少していますが、多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。

梅毒は性的な接触により感染し、感染後3～6週間の潜伏期を経て、感染部位にしこりができたり、鼠径部のリンパ節が腫れることがあります。治療せずに放置すると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすこともあります。また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、死産や早産等が起こることがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

梅毒に感染した恐れのある方は、早めに医療機関を受診しましょう。また、感染した方のパートナーなど、周囲で感染の可能性がある方も検査を受け、一緒に治療を行うことが重要です。

参考 厚生労働省「梅毒に関するQ&A」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp